

限りない学びと青春の私のキャンパス！

埼玉県 文化ボランティアコーディネーター・元ヌエックボランティア
大久保 邦子（おおくぼ くにこ） 1939年生まれ

「ヌエックって、どうしてこんな辺鄙なところにつくったのかしら？」と、はじめてやってくる地方からの参加者によくいわれたものです。

でも、そんな彼女ら彼らも2度3度とやってくるうちに「日頃の忙殺を忘れてしまう…」と、その居心地の良さを満喫し、満足するようになったものです。

今年ヌエック開館40周年…。私がヌエックに関わったのはオープンからきっかりの20年で、会館ボランティアとしての関わりです。

今、20周年のボランティア記念事業で歴代館長4名をお招きしての公開座談会「歴代館長は語る ヌエック誕生の歴史、そして…」を懐かしく思い浮かべております。

記念誌の＜公開座談会＞の冒頭には、「国立婦人教育会館の20年とボランティアの活動を歴代館長の目を通して振り返る。そして今後の婦人教育施設ボランティアの課題と方向、男女共同参画社会の形成との関連などについて語り合う」と記しました。

公開座談会「パートⅠ：ヌエック創設秘話」では、人びとが豊かな空間で学び、交流し、リフレッシュできる場としての意義や、ボランティア導入に当たったの経緯など、創設の秘話が生々しく語られました。

今思えば、私にとってのヌエックボランティアの20年は、青春であり、限りなく豊かな学びのキャンパスです。

活動は、週一日の新聞切り抜きの整理でした。活動を続けるうちに、多くの発見や課題にぶつかり、でも、そのことが仲間との学習や、5周年、10周年、そして20周年の記念事業へと結びついたのでした。気がつけば、交流会やセミナーといった自主的・自発的な活動になっていました。

全国からの彼女・彼らが学び、交流し、リラックスできる、そんな施設ヌエック！情報と交流の宝庫です。

ヌエックがあったからこそ活動ができ、多くの仲間ができた…すべては、館の大きな理解と支援に支えられていた…そんな思いに気づく今日この頃です。